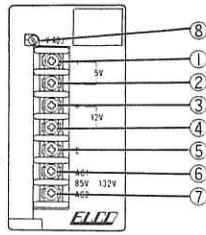


JMB-11,12 取扱説明

1. 端子配列・ボリューム



- ① + 5V出力端子
- ② - 5V GND端子
- ③ + 12V(+24V)出力端子
- ④ - 12V(+24V)GND端子
- ⑤ E 接地端子
- ⑥ AC1 } 入力端子 AC85~132V 1φ 48~440Hz又は
- ⑦ AC2 } DC110~170V
- ⑧ V.ADJ 出力電圧可変ボリューム(+5V)

2. 機能説明

■2.1 過電流保護

- 5Vは定格電流の105~135%、12V又は24Vは定格電流の125~155%で保護回路が動作し始め、出力ショート状態で定格電流の80~100%になるフノ字垂下型です。
- 過電流となる原因を取り除くと、出力は自動的に復帰します。
- 過電流状態での使用は電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

■2.2 過電圧保護

- 定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出ると、過電圧保護回路が動作し出力を遮断します。
- 復帰は、入力電源の再投入で行なえますが、必ず原因を取り除いてから行なってください。

■2.3 12V又は24V出力電流

- 12V又は24Vの出力電流は定格電流の1.2倍のピーク電流(10sec以内)を流すことができますが、平均電流は定格電流以内でご使用ください。

■2.4 出力電圧可変

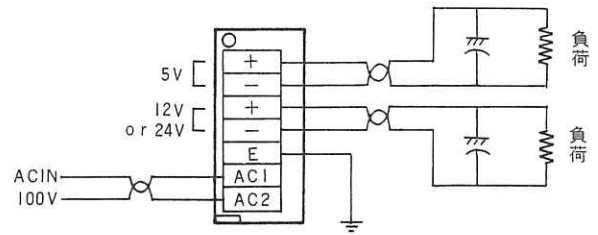
- 出力電圧の可変は+5Vだけ可能で、前面パネルのボリュームで行い、右回転で高く左回転で低くなります。可変範囲は4.5~5.5Vです。
- 出力電圧をあまり上昇させると過電圧保護回路が動作する場合があります。
- 12V又は24Vの出力電圧の可変はできません。

■2.5 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

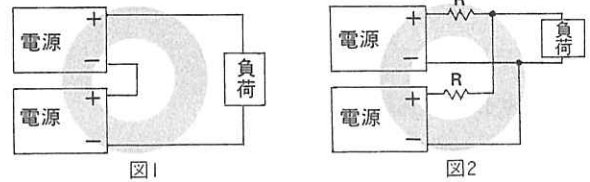
3. 入出力端子への配線

- AC入力線と出力負荷線は分離しツイストしてください。耐ノイズ性が向上します。
- E端子は太い線を使用し、最短距離で筐体へ接続してください。



4. 直列・並列運転

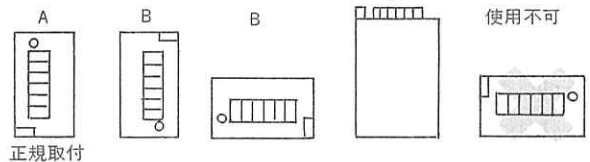
- 2台以上の電源を直列運転(図1)される場合は定格以上の電流が流れないように注意して行なってください。
- 出力電流が不足する場合、図2の方法で並列運転が可能です。この時抵抗Rの電圧降下は1~3%に選んでください。
- 負荷変動が問題になり直接並列に接続して運転したい場合には当社へご相談ください。



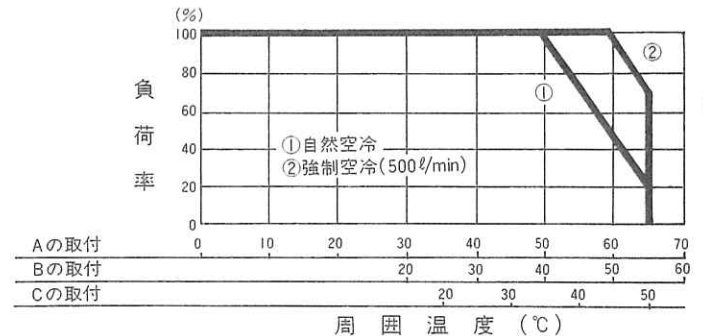
5. 出力ディレーティング

- JMB11,12を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用される時は次の要領でご使用ください。

(1)取付方法

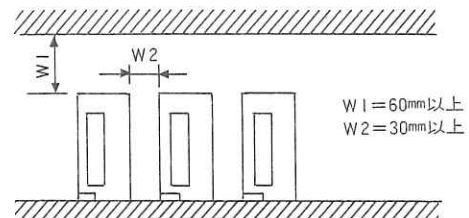


(2)ディレーティング表

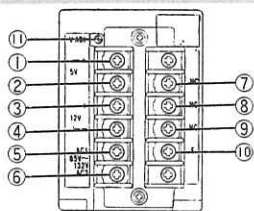


6. 複数の電源の使用

- 複数の電源を並べてご使用になる場合は、電源の間隔は30mm以上開け、下面から上面への自然対流を考慮してください。



1. 端子配列・ボリューム



- ①+ +5V出力端子
- ②- +5V GND端子
- ③+ +12V(24V)出力端子
- ④- +12V(24V)GND端子
- ⑤AC1 } 入力端子 AC85~132V 1φ 48~440Hz
- ⑥AC2 } 又は DC110~170V
- ⑦NC } あき端子
- ⑧NC } ⑩E 接地端子
- ⑨NC } ⑪V.ADJ 出力電圧可変ボリューム(+5V)

2. 機能説明

■2.1 過電流保護 (内部固定)

- 5Vは定格電流の105~140%、12V又は24Vは定格電流の124~168%で保護回路が動作し始め出力ショート状態では、5Vで定格電流の75%~105%、12V又は24Vでは定格電流の80%~120%になるフノ字垂下型です。
- 過電流となる原因を取り除くと、出力は自動的に復帰します。
- 過電流状態での使用は電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

■2.2 過電圧保護 (内部固定)

- 定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出ると、過電圧保護回路が動作し出力を遮断します。
- 復帰は、入力電源を遮断し、30秒間以上経過してから再投入してください。ただし、かならず、原因を取り除いてから行ってください。

■2.3 12V又は24V出力電流

- 12V又は24Vの出力電流は定格電流の1.2倍のピーク電流(10sec以内)を流すことができますが、平均電流は定格電流以内でご使用ください。

■2.4 出力電圧可変

- 出力電圧の可変は+5Vだけ可能で、前面パネルのボリュームで行い、右回転で高く左回転で低くなります。
- 可変範囲は4.5~5.5Vです。
- 出力電圧をあまり上昇させると過電圧保護回路が動作する場合があります。
- 12V又は24Vの出力電圧の可変はできません。

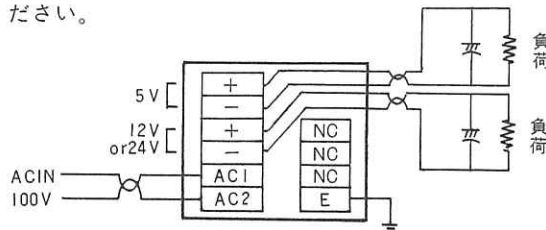
■2.5 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

3. 入出力端子への配線

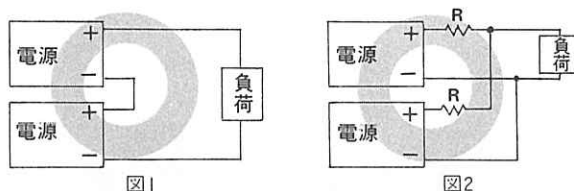
- AC入力線と出力負荷線は分離しツイストしてください。耐ノイズ性が向上します。
- E端子は太い線を使用し、最短距離で筐体へ接続してください。耐ノイズ性が向上します。

- 出力負荷線は太く短く配線し、ラインドロップは0.3V以下にしてください。



4. 直列・並列運転

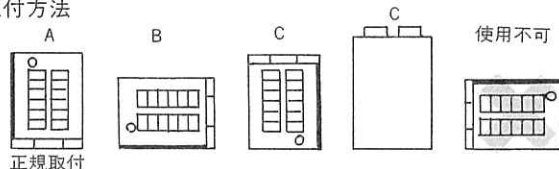
- 2台以上の電源を直列運転(図1)される場合は定格以上の電流が流れないように注意して行ってください。
- 出力電流が不足する場合、図2の方法で並列運転が可能です。この時抵抗Rの電圧降下は1~3%に選んでください。
- 負荷変動が問題になり直接並列に接続して運転したい場合には当社へご相談ください。



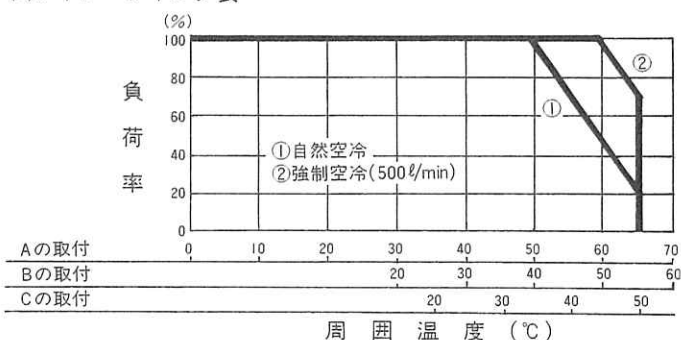
5. 出力ディレーティング

- JMB 21,22を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用される時は次の要領でご使用ください。

(1)取付方法

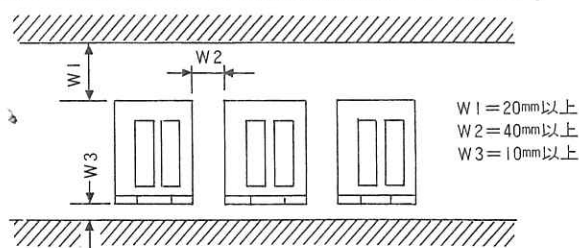


(2)ディレーティング表



6. 複数の電源の使用

- 複数の電源を並べてご使用になる場合は、電源の間隔は20mm以上開け、下面から上面への自然対流を考慮してください。



- W1=20mm以上
- W2=40mm以上
- W3=10mm以上